

脱原発・嵐山町に第6次産業(第1次×第2×第3次産業)として再生可能エネルギーを

今、日本には、日本から製造業がなくなる危険があります。

- ・第1次産業の農林水産業は、埼玉県では0.6%、嵐山町は0.8%。
埼玉県の製造業は20.2%、嵐山町は35.4%。
- ・埼玉県人口705万人。埼玉県内就業者は308万人弱。サービス産業中心の東京では生産は無理。グローバル化経済でサービス業中心では遠い外国のマイナスの出来事の影響をすぐ受けます。
- ・里地里山の恵みでエネルギーもつくり、第1次産業の比率を多くし、嵐山町の自給率を高め、地元産で製造業もつくり、グローバル経済に影響を小さくするように対応したいものです

地域発エネルギー産業

新しい雇用と里地里山の活用

里地里山が荒れています。

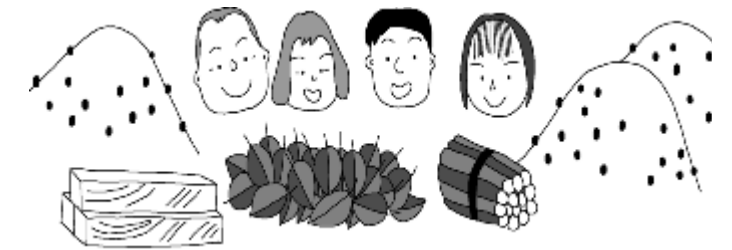
荒れた里地里山(民有地)の恵みを、薪ボイラーやペレットストーブの燃料として熱エネルギーに変換する仕組みの事業化は脱原発の一步です。

東日本大震災後、ウッドボイラーは見なおされています。50年前、お風呂は薪でした。山林の恵みを熱エネルギーに変換する経済循環を考えます。薪ボイラーは農家のハウス栽培にも利用できます。

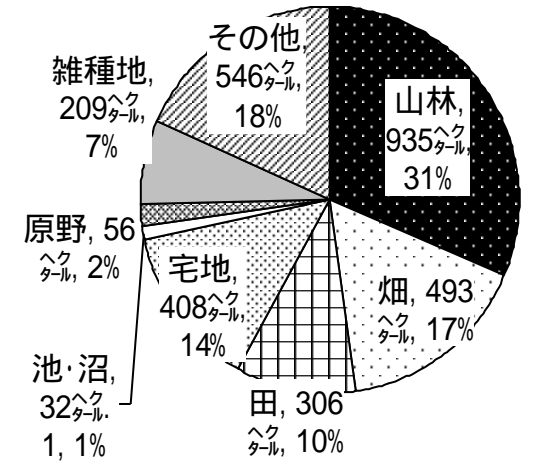
嵐山町では、薪やペレットを公共施設「やすらぎ」のお風呂燃料に使うことを提案します。

薪や燃料のペレットを作る雇用があります。

石油を買うとお金が外国に流出しますが、そのお金を里地里山の資源活用に使えば、地域にお金が回ります。

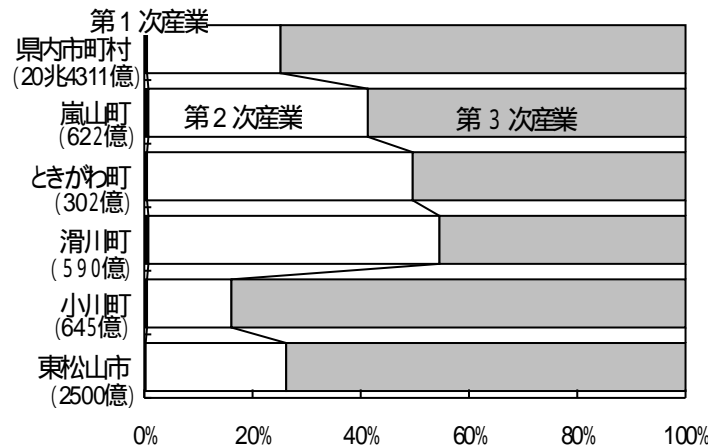


嵐山町地目別土地面積

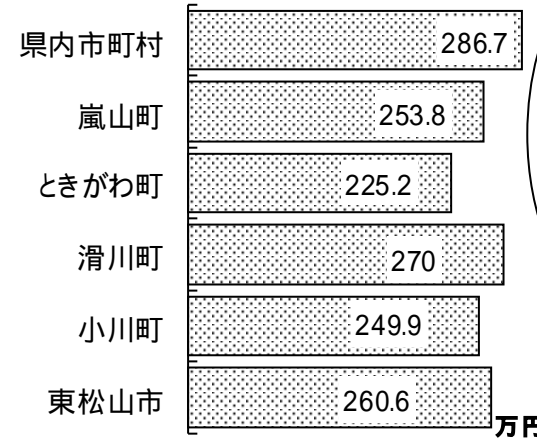


産業構造比較

(市町名の下に数字は域内総生産高です)

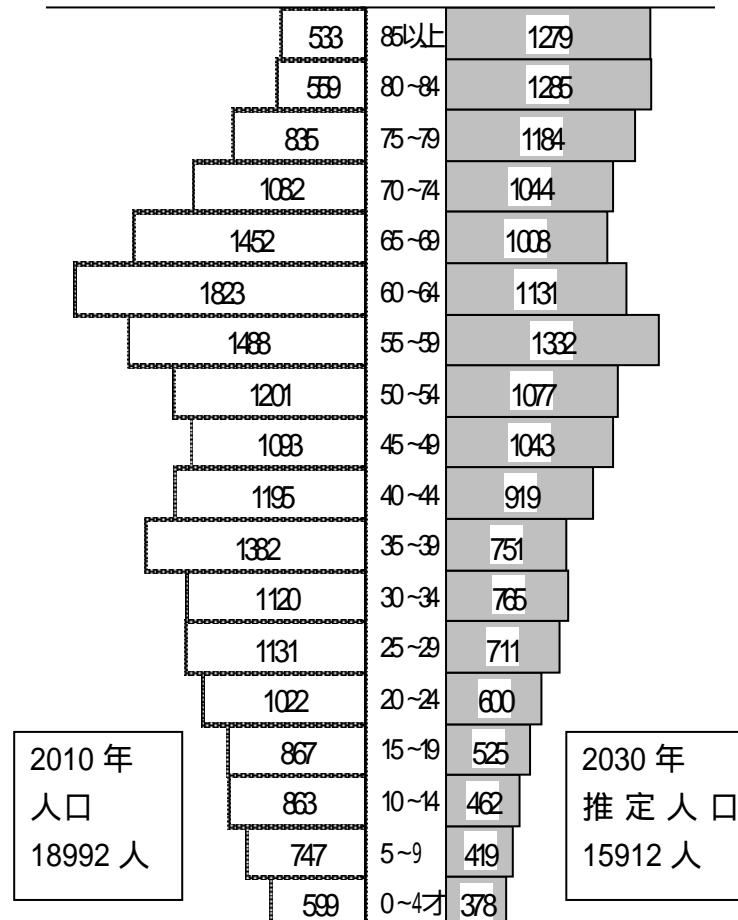


市町一人当たり所得



比企地域の一人当たり所得は埼玉県市町村平均より低いですね

嵐山町人口(2012年7月1日)18579人



2030年、世界の人口は増え続けます。日本と嵐山町は人口減少で逆ピラミッド

右のグラフは国立人口問題研究所の嵐山町人口です。左側が2010年。右側は、嵐山町の2030年の推計人口です。

18年後、逆ピラミッドの人口構成でも豊かに生活するためのまちづくり、本気で皆さんと一緒に考える場をつくるように議会に働きかけます。

若者は少数派。中高年・高齢者が圧倒的多数を占める社会が30年以上続きます。

大人・高齢者・若者の世代の枠をはずして、社会を再構築しましょう。

日本も嵐山町も、女性・子ども・若者の意見を軽視する男性中心の「オヤジ社会」です。

女性が政治参加できるように工夫していきます。利益よりも生命優先の地域経済循環を!

部分的にスマートシティの取り組みを

スマートシティは、再生可能エネルギーなどによる電力を、地域交通・家庭生活に必要なエネルギーとしてITを使い効率的に送電するまちづくりの方法です。

遊休農地に発電所事業のビジネスを

遊休農地が139ヘクタールあります。すぐに使えない遊休農地は小型太陽光発電所にして地域の家庭・工場・事業所用の電力にできるといいですね。原発ではない地域エネルギー発電所をつくる働きかけをしていきます。7月より1kw42円で、売電できるので、ビジネスになります。

電気自動車を使った移送サービスを、公共施設で、太陽光による電力を移送サービス用の自動車に充電できる実験的スマートシティから始めることを提案します。

自立したエネルギーで、生産される農産物を加工して販売する事業を起こすよう提案します。

嵐山町経済の0.8%を占める第1次産業・・・これ以上、減らさない。素材だけでなく高齢で一人暮らしの人の食べやすい食材の商品化事業も・・・

提案していきます。

嵐山町に環境と経済・雇用を解決する政策をつくること。

最初、町が持ち出しても、結果として利益が出る方向を考えていきます。

ITや自動車産業は、企業は利益を求めて海外(現在はインドが主)に移っています。

里地里山を生かす生活に、新しい活路を求め、成長の限界を突き破りましょう。

